

テゼからの提言 2022

一致を創りだす者になろう

一致を育むこと、人と人との絆を創ること、これは現代における最大の課題のひとつです。

互いに矛盾した展開が存在している、それが現代の特徴です。

一方で、人類は、自分たちがいかに被造物全体とつながり、連動し合っているかをますます認識するようになりました。ウイルスの世界的感染は、わたしたちが一つの家族であり、共に苦難に立ち向かい、共に乗り越えていく存在であることを再認識させました。

その一方で、世界は社会的、政治的、倫理的にますます二極化しています。このことは、社会、国家間、そして家族内においてさえも新たな対立を生んでいます。キリスト教もこのような反目と無縁ではありません。あらゆる多様性の中で平和への証しが不可欠であるまさにこの時に。教派間、そして教会内でさえも、相違は硬直化し、分裂への危機が生じています。

今日、いくつかの国では、こうした反感に加え、キリスト教界で行われた性的暴力や精神的虐待の発覚により、キリスト教の教会や共同体に対する大きな信頼が失われています。多くの人々が信頼を裏切られるのを目の当たりにしているのです。テゼでは、他の場所と同様に、近年、これらの深刻な問題について誠実に取り組むための機関を設けています。そして、テゼがすべての人にとって安全な場所であるために、できる限りのことをしたいと願っています。

(www.taize.fr/protection)

教会は、すべての人のための友情の場となるように呼び出されています。この目的のためには、今日、福音のメッセージに忠実に立った、根本的な転換が必要です。キリストは、すべてを捧げつくすその愛によって、新しい源泉を開いてくださいました。それは、わたしたちが兄弟姉妹として生き、すべての人間の尊厳を守り育み、被造物を大切にできる力を引き出すことができる源泉です。キリストは、わたしたちが兄弟姉妹との交わりによって、しるしになるようにと招いておられます。キリストが、すべての人を神の愛の中で一致させるために来られたことを示すしるし。

以下に記す 2022 年の提案は、こう自問することへの招きです。人類家族、そ

してすべての被造物、身近な人々、諸教会やさまざまな共同体、さらにはわたしたち自身の心の中で、一致が成長するためにわたしはどんな役割を果たすことができるだろうか。

ブラザー・アロイス（院長）



- それぞれの提案の終わりには、考察を深めるためのテキストが添えられています。これらの短い引用文は、ウェブサイトやポッドキャストに載る記事、そしてテゼで行われるワークショップなどをおしてさらに深めることができます。
- これらの六つの提案のそれぞれについて、聖書の参考箇所や解説がオンラインで公開されます。これらは、テゼで毎日開催される聖書の学びのプログラムと連動します。(www.taize.fr/bible)

信頼の巡礼：2022年

ウイルスの世界的感染の影響は続いていますが、テゼ共同体は、テゼおよび各地で信頼の巡礼を以下のように可能な限り続けます。

- ・年間を通して：テゼで毎週開催される集い
 - ・2022年5月8日～15日：聖地巡礼。
 - ・2022年7月13日～17日：若いイスラム教徒とキリスト者の友好の集い。
 - ・2022年8月21日～28日：18歳から35歳のための内省プログラム。この週に、希望者は生態系の多様性の保護に関する特別企画に参加することができます。
 - ・2022年12月28日～2023年1月1日：ヨーロッパ青年大会（場所はトリノ大会で発表される予定）
-

提言 1：受けとることの喜び

わたしたちは皆、人類が平和で一つになる未来に貢献することができます。これはまず、互いに築き上げる関係から始まります。わたしたちは、家族の中で、親戚や友人の中で、特に試練の時に、互いを大切にする必要があります。

また、自分とは異なる背景を持つ人々に心を開くたびに、人間家族の一致は育まれます。そのような人々に、中でも普通だったらあまり近づくことのない人たちに、もっと積極的に近づいていくことができるでしょうか。しばしば、想像もしなかったものを相手から受けとり、驚かされるのです。

躊躇や恐怖から自由になれば、受けとる喜びが与えられます。わたしたちは他者との関係の中で自分自身のアイデンティティを見だし、他者はわたしたちを内なる悲しみから救い、わたしたちの存在に意味を与えてくれるのです。

イエスが語るたとえ話のひとつに、傷ついた人が通りすがりの見知らぬ人に助けられる物語があります。このとき、その人は民族や政治、宗教の壁を越える危険を冒しました。傷ついた人の隣人となったそのとっさの行為は、その日、彼の人生に意味を与えたのではないのでしょうか。今日もわたしたちは、この「良きサマリア人」の姿を思い起こし、心動かされるのです。(ルカ 10:29-37)

「わたしの国のことわざのひとつに『ウブントゥ』というものがあり、それは人間であることの本質を示すものです。ウブントゥは、人間が孤立しては存在することはできないという事実を語り、相互の関連性の中でわたしたちが存在していることを告げることわざです。わたしたちは、自分たちのことを、互いに切り離された単なる個人だと考えがちですが、自分たちはつながっていて、自分の行為は世界全体に影響を及ぼすのです。」

デズモンド・ツツ師

聖公会の名誉大主教・南アフリカ共和国でのアパルトヘイト反対と和解のために働いた

提言 2：対話を育む

一致を育てるには、まず信頼の絆をつくる必要があります。しかし、あまりにも多くの人間関係が、不信感によって脅かされています。公共の場での議論や社会のメディアでは言葉の暴力がますます多くなり、人々は恐怖によって操られています。このような異常な状況に、わたしたちはどのように応答すべきなのでしょう。

耳を傾け、対話の道を選択することができます。これは、相手の意見に同調するのではなく、自分とは異なる考えを持つ人と会話を続けるためにできる限りのことをする、ということです。対話が途絶えることのないよう、力を尽くしましょう。

先入観や偏見を持たないように注意するのです。だれも自分の特定の行動や意見にすべてを集約させてはならないのです。そして、意見の相違は、それがたとえ非常に大きな相違であっても、それを攻撃的にならずに表現することができます。しかし、ある種の不正な状況下においては、怒りを表現せねばならないこともあります。

わたしたちの社会には、自分のアイデンティティを守ろうとする反射的な気持ちがあり、それが対立を悪化させますが、これはキリスト教の教会や共同体でも同じです。他者と対立して自分たちを定義するのではなく、他者への開放性を排除しないアイデンティティと帰属感を育むことはできないでしょうか。

「もっとも誠実で親密な友情が、本質的な事柄について異なる考えを持つ人々の間に生じることがあります。それは当然、苦痛を伴いますが、その分、友人をより大切にすることになります。」

ジャック・マリタン
1970年・フランスの哲学者

提言3：みな互いに兄弟姉妹であるということ

一致を育むということは、社会的不平等に対して否と声をあげることです。多くの偏見は、非常に多くの人々、さらには国全体が被ったり感じたりした排斥の体験にその始まりがあります。

わたしたちは、あらゆる教派のキリスト者たち、異なる宗教に属する人たち、また神を信じない善意の人々とともに、不安定な状況にある人々、排除されている人々、人生の旅路が大きな苦しみに覆われた移住者たちと連帯することができます。

兄弟姉妹として生きることは、わたしたちの戸口から始まります。隔たりを越えて、友情を築こうではありませんか。そうすれば、わたしたちの心はより開かれ、より広く、より人間らしくなるのです。わたしの生き方が、地球の裏側にまで影響を及ぼす可能性があることに、わたしたちは気づいているのでしょうか。

キリスト者にとって、互いに兄弟姉妹として生きることと信仰は切り離せません。イエスはこう告げておられます。「わたしの兄弟姉妹のうちもっとも小さい者の一人にしたことは、すべてわたしにしたことである」(マタイ 25:40) と。キリスト・イエスはこの世に来られることによって、すべての人間と結ばれました。わたしたちは、傷ついた人々に向かうとき、キリストに近づき、キリストとのより深い関係に招かれます。

「今日の最大の課題は、いかにして心の革命を起こすか、そしてその革命はわたしたち一人ひとりから始めなければならない、ということです。わたしたちが一番低い位置に立ち、他者の足を洗い、十字架を引き受けられたあの燃えるような愛、あの情熱をもって兄弟姉妹を愛し始めたとき、わたしたちは本当に『今、わたしは本当に始まった』とすることができるのです。」

ドロシー・デイ
米国の文筆家。1963年、人権運動の最前線に立った

提言 4：全被造物との連帯

今日、わたしたちは被造物の一体性をよりはっきりと理解するようになりました。あらゆる生き物が互いに依存していること、それは、わたしたちがある意味ですべての生き物の姉妹であり兄弟であることを教えています。キリスト者にとって、このすばらしい地球は、神がわたしたちに託されたものであり、わたしたちは次の世代にそのすばらしさを引き継がなければなりません。

そして今、人間の活動によって地球がいかに傷つき弱められているかを目の当たりにしています。最近、環境災害や異常気象が世界の多くの地域で発生しています。これらの危機によって、ますます多くの人々が、故郷を離れることを余儀なくされています。そして、ここ数十年、多くの研究が生態の多様性の破壊について警告を発しています。

このような生態系の緊急事態に直面したとき、政治的対応、技術革新、そして社会的な選択が極めて重要になります。多くの若者が勇気ある行動を起こしていますが、彼らの中に不満や怒りがくすぶっているのも事実です。そしてそれは理解できます。

しかし、どんな障壁があっても、落胆してはいけません。多くの場合、ほとんど何もないところから始めるとき、変革が始まるのです。キリスト者にとって、神への信仰とは、こうした危機に対応する人間の可能性への献身と信頼を呼び起こすことなのです。環境保全への転換を始める、あるいは深めるために、今どんな具体的な一歩を踏み出すことができるのか、それがどんなに地味なことであっても、その自問からすべては始まるのではないのでしょうか。

「だれであれ、どこにいようと、わたしたちには皆、気候変動と環境悪化という前例のない脅威に対する集団での対応を改めるための、何らかの役割があるはずです。神の被造物を世話することは、責任ある対応を求める霊的な命令です。今が正念場です。わたしたちの子どもらの未来と、わたしたちの共通の家の未来は、この取り組みにかかっているのです。」

共同声明 2021年9月1日
ローマ教皇 フランシスコ
エキュメニカル総主教 バルトロメオ
カンタベリー大主教 ジャスティン・ウェルビー

提言5：キリスト者間の一致への情熱

一致を求めることは、キリスト者にとって大きな使命です。もしわたしたちが分裂したままであれば、どうして兄弟姉妹として生きる友情のパン種となることができるでしょうか。わたしたちは、キリストの中に、一致を生み出すただ一つの源泉を見いだします（ヨハネ 17:20-21、エフェソ 2:14）。十字架上でいのちを捧げることによって、キリストは、人間同士の憎しみや壁を打ち砕く愛をその極みまで差し出されたのです。

福音はわたしたちに、分裂を超え、大きな多様性の中で一致が可能であることを証しするよう招いています。それは、人類が兄弟姉妹として共に生きていくために、キリスト者が果たすべき特に重要な貢献ではないでしょうか。このような具体的なあかしは、大切なことを単なる言葉よりもより伝えます。

福音はわたしたちに一致を生み出す術（すべ）を学び養うよう促しています。わたしたちは皆、どこにいても、耳を傾け、友情の絆を築くことによって、一致を創りだす者となります。

キリスト教の教派間の対話では、残された相違を真剣に受け止めなければならず、神学的な研究が不可欠です。しかし、対話はそれ自体では目に見える一致につながりません。

前進するために、異なる教派の教会の洗礼を受けた者同士が、神の言葉を中心とした共同の祈りにもっと頻繁に集うことが大切です。新たなことが始まるかもしれない。聖霊はしばしばわたしたちを驚かせるのです。そこで、イエスがわたしたちを結びつける方であること知るでしょう。そしてそのとき、自分に何が欠けているかを謙虚に認識し、他の人から受けとるものに自分自身を開くとき、キリストの愛がはるかにはっきりと輝きだすことを理解するに違いありません。

「大切なのは、互いに与え合い、受けとり合うことを受諾することです。教義的な相対主義に陥るのではなく、使徒的な信仰の本質は、異なるが合流する線に沿って表現されうるという理解に立つことが重要です。そして、残りの部分は、新たな聖霊の注ぎを望み、待ち、それを迎える準備をすることです。」

エリザベート・ベア-シゲル
1986年 正教会の神学者

提言 6：心を神によって一つにさせていただく

一致を育むには、わたしたちの全身全霊をかけた取り組みが必要であり、それはまず自分の心の中から始まります。古い詩編は神に向かってこのように祈っています。「あなたの御名をあがめることができるように、わたしの心を一つにしてください」（詩編 86:11）。

内なる一致に向かうためには、すべてを行うことも経験することもできないことを受け入れて、自分の願いを整理することが必要ではないでしょうか。自分の前に多くの可能性があるとするれば、どれがもっとも平和と光と喜びにつながるかを識別するのです。わたしたちの中には、神から与えられる交わり（コミュニケーション）と一致への深い渇きがあり、それを祈りで表現することができます。たとえ言葉が少なくても、神とともに沈黙にとどまることは、人生の意味を見出す助けとなり、そのような祈りをとおして、聖霊がわたしたちの内働されることへ自分を新たに整えるのです。

心の一致を見出すためには、常に一つの道があります。それは、キリスト・イエスに目を向け、イエスをもっと知り、喜びと悩みをイエスにゆだねることです。たとえ困難の中にあっても、将来についてほとんど確信がなくても、聖霊を通して、復活されたキリストがいつもわたしたちとともにいてくださることを信じ、この道を一步ずつ歩み続けるのです。

「沈黙に入るということは、神に耳を傾けることであり、それを妨げるものすべてを取り除くことです。それは、祈りの中でも、祈りの外でも、神がみ旨を示される場所ならどこでも神に耳を傾けることを意味します。神のみ旨を行うためには、この沈黙が必要です。沈黙は、わたしが普段あまりに軽視している、あるいは無知から軽蔑している自分自身の資質を再収集させます。農夫が収穫物を納屋に集めるように、研究者が実験結果を集めるように、わたしたちは神のみ旨の筋道、手がかり、招き、命令を『収集』しなければなりません。」

マドレーヌ・デルブレール
1968年 フランスの作家・ソーシャルワーカー